

令和7年度 自己評価および学校関係者評価書

令和 8年 3月 2日
函館市立巴中学校

1 本年度の重点教育目標

『活気に溢れ、生徒が育つ』学校を目指して

2 本年度の取組の重点

①確かな学力の向上 ②豊かな人間性の伸長 ③教職員の業務改善の一層の推進 ④地域に根ざした学びの創造

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①確かな学力の向上	自ら学ぼうとする意欲を高める指導の工夫・改善	b	個別最適な学習活動の推進、ICTの適切な活用及び、これらに関する教師の研修機会の確保。	A	A	日々、生徒の学力の向上、人間性の伸長についてご尽力されている様子は頭の下がる思いがいたします。しかし一部に、例えば各種ハラスメントなどにみられるような世の中の「風潮」のようなものを意識するあまり、改善につながっていないのでは？と感じることがあります。改善を試みた結果が本当の改善になっていない場合はいったん立ち止まり、考えなおすことも必要なのではないかと思えます。
	さまざまな生徒の教育的ニーズへの対応	b	校内サポートルームの活用や教室で困り感をかかえている生徒への個別対応の充実。	A	B	
②豊かな人間性の伸長	校内縦割り活動を活用した温かな人間関係と集団の中で一人一人が輝ける場の設定	a		A	A	
③教職員の業務改善の一層の推進	勤務時間、部活動を含めた業務の効率化と合理化	b	部活動停止期間の拡大、生成AIを用いた業務の効率化。	A	A	生成AIで業務の効率化ができることへの驚きや期待を感じました。
	教育課程の見直しによる、教材準備時間や生徒とのふれあい機会の確保	b	行事の精選や年間授業時数の適切な設定、テストや進路業務に関わる業務の時間確保。	A	A	
④地域に根ざした学びの創造	地域人材を活用し、学校運営協議会と協力しながら「地域とともにある学校」をつくる。	a		A	A	フードドライブ活動や知ってよかった講座など地域と共に歩む活動が行われており、好感が持てます。
	学校の「見える化」の推進	b	HPや学校から発信されるメールを活用した積極的な情報発信により、学校の見える化を推進。	A	A	学校祭や中体連などの活動がHPで詳しく報告されており、生徒の活動がHPを通してよく見えています。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。